

# 川崎市 新型インフルエンザ等発生時 における住民接種体制構築に 関する検討

健康危機管理担当感染症担当課長  
平岡 真理子



KAWASAKI CITY

# 検討経過

「新型インフルエンザ等発生時における予防接種の円滑な実施に関する研究」研究班への参画  
大都市モデル市としての検討



検討状況

- \* 課内での検討
- \* 医師会、教育委員会との調整



今後

- \* 保育園・幼稚園関係
  - \* 高齢者施設関係
- との調整



# 目次

- \* 1 川崎市の基礎データ
- \* 2 接種体制とスケジュール
- \* 3 施設集団接種
- \* 4 地域集団接種
- \* 5 今後の課題



# 1 川崎市の基礎データ

(1)人口数 1,461,866人 (平成27年2月1日現在 川崎市統計情報より)

(2)施設数と対象者数

対象者	施設数	対象者数	対象者数把握根拠	対象者数
基礎疾患		102,200人	全人口の7%と推定	102,200人
妊婦		10,000人	推定人口	223,337人
医療機関入院患者(病床数)		11,005人	平成25年度病院診療所名簿	
中学生(中学校)	58	32,677人	児童・生徒数・学級数等調査値	
小学生(小学校)	117	73,017人	児童・生徒数・学級数等調査値	
幼児(保育園)	357	45,574人	平成26年4月保育所利用申請・入所待機状況	
幼児(幼稚園)	86			
幼児(保育・幼稚園未入所者)		34,514人	川崎市統計書平成25年度版	
高齢者施設	175	12,939人	川崎市統計書平成25年度版	
障害者・福祉施設	269	3,611人	川崎市統計書平成25年度版	
特定接種		10,000人	推定人口	

(3)市内医療機関数

分類	施設数	計	施設数把握根拠
病院	42	42	平成25年度病院・診療所名簿
診療所	内科	568	
	小児科	226	
	その他	136	
		930	

川崎市医師会加入 平成26年度予防接種実施協力医療機関 約600施設



## 2 接種区分と接種体制

「基礎疾患を有する者、妊婦」、「幼児(保育・幼稚園未入所者)」は国のガイドラインでは地域集団接種となっているが、川崎市ではかかりつけ医にての個別接種と位置づける。

接種区分	対象者	接種体制
<b>個別接種</b> 	基礎疾患を有する者 (医学的ハイリスク者)	かかりつけ医にて接種。
	妊婦 (医学的ハイリスク者)	
	幼児 (保育・幼稚園未入所者)	
<b>施設集団接種</b> 	医療機関入院患者	入院医療機関の医師が接種。
	中学生、小学生	原則、校医が接種。校医の他に市内医療機関から応援チームを派遣。
	幼児(保育・幼稚園入所者)	園医が接種。
	高齢者施設、 障害者・福祉施設入所者	嘱託医が接種。
<b>地域集団接種</b> 	個別接種、施設集団接種対象者及び 特定接種対象者を除く全市民	医師会市内協力医療機関 (約600施設)の医師が所属医療機関 において接種。



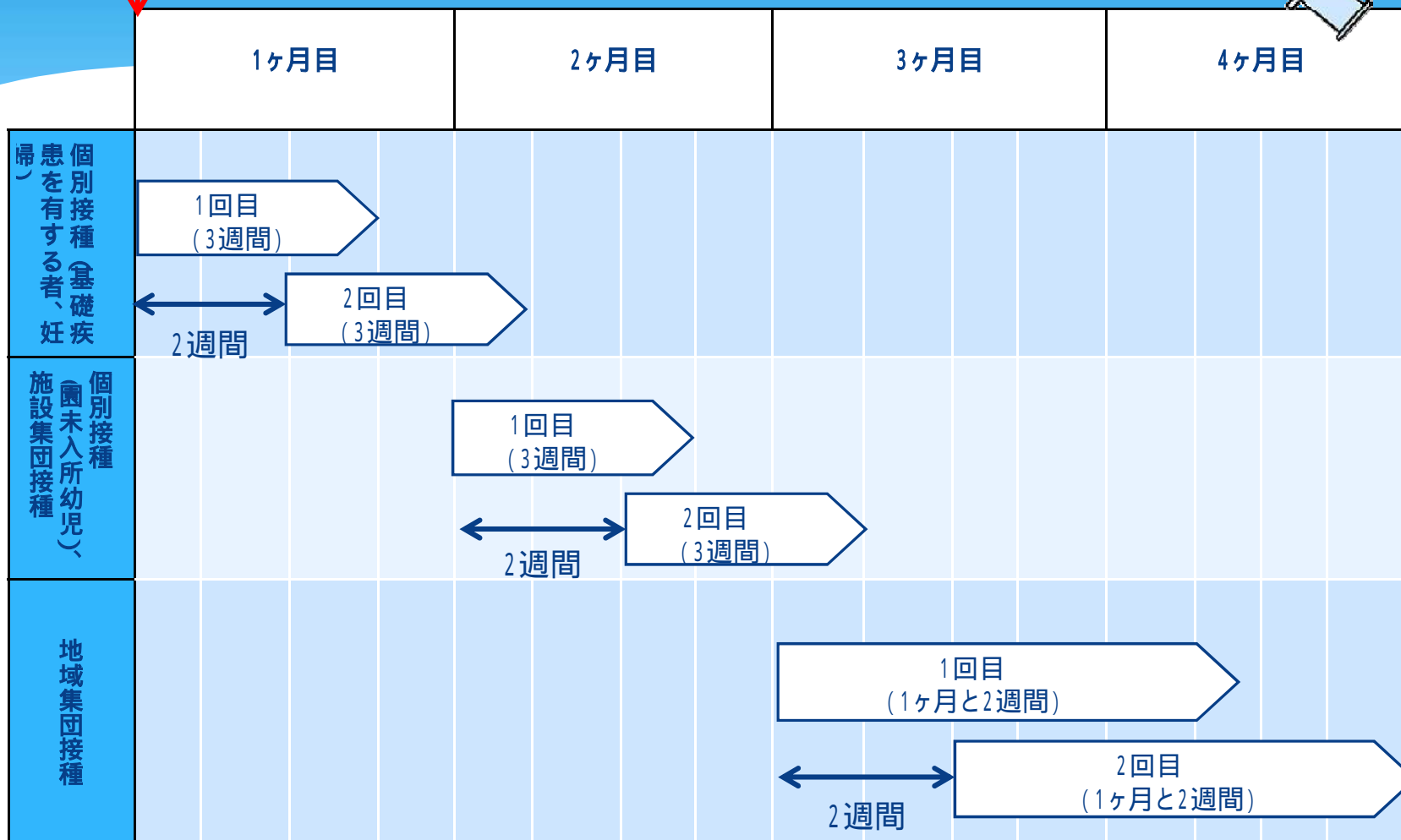
## 3 接種スケジュール



# 接種スケジュール表



ワクチン供給開始



(注釈) 今回は、1回目と2回目の接種間隔は2週間としてシミュレーションした。



## 4 施設集団接種

## (1) 対象者及び施設数

対象者	施設数	対象者数	
医療機関入院患者(病床数)		11,005	人
中学生(中学校)	58	32,677	人
小学生(小学校)	117	73,017	人
幼児(保育園)	357	45,574	人
幼児(幼稚園)	86		
高齢者施設	175	12,939	人
障害者・福祉施設	269	3,611	人
合計	1062	178,823	人



## (2) 接種期間

1回目、2回目の各接種に要する期間は3週間を想定。

1回目と2回目の間隔を2週間とする。

開始から2回接種完了までは2ヶ月と1週間を要する。



## (3) 接種体制

小学校、中学校への応援医を含むチーム体制や施設等における接種体制については、今後、医師会及び教育委員会や施設担当部局等とさらなる協議が必要。



## 5 地域集団接種

## (1) 対象者

対象者	対象者数把握根拠	対象者数
地域集団接種	川崎市人口ー(個別集団接種+施設集団接種+特定接種)	112万人



## (2) 臨時接種会場での接種体制の検討

2～3ヶ月で地域集団接種対象者全員に、2回接種完了を目指す

臨時接種会場で会場1ライン設置に、9名の職員動員を想定。2ラインでは18名の職員動員

動員人数の内訳 合計9名

予診を担当する医師1名 接種を担当する看護師等1名

薬液充填及び接種補助を担当する看護師又は薬剤師等1名

受付・記録、予診票確認、予防接種済証発行 事務職各1名

接種後の状態観察を担当する看護師等1名

会場誘導・案内 事務職2名

2ライン × 1時間あたり40人接種 × 1日6時間(午前3時間、午後3時)

1日あたり1臨時接種会場で480人へ接種

## 結論

大都市圏では、臨時接種会場をいくつ設けても、1～2ヶ月内での接種完了は、ほぼ不可能。

また、臨時接種会場を設置するための準備の労力、職員動員数の多さに比べ、接種人数がかなり少ないため、大都市圏で臨時接種会場のみで実施するのは、かなり困難。

## (3) 医療機関での接種体制の検討

条件：医師1時間の接種人数を30人  
1週間に10時間以上地域集団接種に従事

\* 看護師、事務職等のスタッフも医療機関の職員で

## 医師会加入予防接種協力医療機関(600施設)で接種

1週間における接種人数は

$30 \text{人/時間} \times 10 \text{時間/週間} \times 600 \text{医療機関} = 18 \text{万人/週間}$   
地域集団接種対象者(約112万人)へ1回目の接種を完了  
するまでの期間は

$112 \text{万人} \div 18 \text{万人/週間} = 6.22$

接種完了まで1ヶ月と2週間を要する。



(4) 医師会加入予防接種協力医療機関(600施設)での  
 想定接種スケジュール

・各医療機関で選択できる接種体制。

条件: 医師1時間の接種人数を30人  
 1週間に10時間もしくは13時間、地域集団接種に  
 従事してもらう。

10時間体制 / 1週間 / 1医療機関

(想定1) 1週間のうち平日1日(7時間) + 土曜日午後(3時間)

(想定2) 週5日間、昼休み2時間(午後1時から午後3時まで)

(想定3) 週5日間、通常診療後2時間(午後6時から午後8時)

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
対象 人数	接種 会場	チ- ーム	医師1人1 時間の接 種人数	接種 時間	医師1日あたり の接種人数 エ×オ	1日の接種 人数 イ×ウ×カ	接種完了に 必要な回数 ア÷ク	実施 回数	費やす日 数
1,120,000	600	1	30	10	300	180,000	6回	週5日間を 6回	1ヶ月と 2週間

**13時間体制 / 1週間 / 1医療機関**

(想定1) 週5日間、昼休み2時間(午後1時～午後3時まで)  
+ 休診日(3時間)

(想定2) 週5日間、通常診療後2時間(午後6時～午後8時)  
+ 休診日(3時間)

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
対象人数	接種会場	チーム	医師1人1時間の接種人数	接種時間	医師1日あたりの接種人数 エ×オ	1日の接種人数 イ×ウ×カ	接種完了に必要な回数 ア÷ク	実施回数	費やす日数
1,120,000	600	1	30	13	390	234,000	5回	週6日間を5回	1ヶ月と1週間







# 6 課題

## 【接種体制】

- ・施設集団接種と地域集団接種で重複している接種医の確認
- ・接種医が体調不良になった場合の代理接種等接種体制の検討

## 【周知、広報】

- ・混乱を招かないような広報、周知方法の検討

## 【ワクチン供給】

- ・円滑なワクチン供給が出来るよう、県域での供給体制の整備
- ・予約時にワクチンが注文できる等のシステムの開発

## 【接種記録】

- ・接種済み証の発行及び、2回目接種時の1回目接種の確認
- ・接種歴のデータ保存について

## 【学校における施設集団接種】

- ・小中学校の施設における集団接種について、学校長への事前説明、及び理解協力
- ・接種医及びスタッフの派遣について
- ・高校生の接種体制について(施設集団接種の検討) などなど

御清聴ありがとうございました。



KAWASAKI CITY